

留萌管内

かぐらまい こきりこうた 神楽舞・筑子唄

民俗芸能団体：羽幌町こきりこ唄保存会（羽幌町）

解説



昭和 51 年（1976 年）、羽幌町指定無形文化財である平越中獅子舞の源流調査がきっかけとなり、富山県平村との交流によって昭和 54 年（1979 年）9 月に保存会が設立され、同年 9 月に羽幌町と平村は

友好町村となった。昭和 60 年（1985 年）9 月に平村の白山宮に筑子唄踊を奉納し、国内初の分家として認証書を授与され、現在に至る。

神楽舞と筑子唄は羽幌町字平地区の母村である富山県東砺波郡平村（現・南砺市）越中五箇山に伝わる古代民謡で、同村上梨にある国の重要文化財白山宮の神事舞である。

楽器は筑子竹（短い棒状の打楽器）、ささら（竹の先を細く割ってつくり細い棒でこすって音を出す）、鍬金（田畑を耕すクワの金属部分を打楽器にしたもの）、篠笛、太鼓等であり、曲目は筑子唄・神楽舞が主である。

例年、11 月 3 日（文化の日）に開催される羽幌町民芸術祭舞台発表会で披露している。